

1. 授業のねらい・概要

インターネットなどを通じて触れる機会の多い映像表現について、その文法や撮影・編集技術の基礎を身につけ、自ら短い映像作品を実際に制作することを通じて、SNSにおける活用なども視野に入れた映像による情報発信の方法を学ぶ。また同時に映像に関わるメディアリテラシーを身に付けることも目標とする。

2. 授業の進め方

講義と同時にコンピュータによる実習を並行して行う。

3. 授業計画

1. 映像によるコミュニケーション	9. 編集技術 (1) 映像の調整
2. 映像の歴史	10. 編集技術 (2) エフェクトの応用
3. 撮影技術 (1) 技術的基礎	11. 映像制作 (1) 企画
4. 撮影技術 (2) カメラワーク	12. 映像制作 (2) 撮影
5. 撮影技術 (3) 演出	13. 映像制作 (3) 編集
6. 編集の基礎 (1) クリップの合成	14. 映像制作 (4) 最終調整
7. 編集の基礎 (2) 文字による表現技法	15. まとめ
8. 編集の基礎 (3) グラフィック要素による表現技法	

4. 到達目標

映像編集ソフトの基本的な使用法を理解し、簡単な映像の合成や特殊効果をかけることができるようになる。また複数の技法を組み合わせた映像の編集により応用的な映像制作をこなせるようになる。さらに自ら撮影した映像にこれらの技法を組み合わせて加工することにより、高度にデザインされた映像を制作できるようになることを目指す。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

各回の講義において扱われた授業内容および実習内容を十分に復習し、課題を次回講義までに完成させておくこと。また撮影などの際には授業時間外における作業を済ませておくこと。

6. 成績評価の方法・基準

受講態度およびその都度の提出課題、最終制作課題による。

7. テキスト・参考文献

テキスト：黒岩 亜純、宮 徹『大学生のための動画制作入門：言いたいことを映像で表現する技術』慶應義塾大学出版会、2017年 ISBN：978-4766424287

参考文献：千種 伸彰『セルフキャスト！～ビジネスを加速させる動画配信』サイゾー、2016年 ISBN：978-4866250533

8. 受講上の留意事項

実習が中心となるので、授業には毎回出席すること。「画像情報学」を履修済みあるいは同時履修中であることを強く勧める。撮影は基本的に各自のスマートフォンを使用して行う。

映像の作成には芸術的センスも求められる。映像の成り立ちに注意しながら映画などを見るように心がけること。